

## 情報誌「地域防災」の創刊に寄せて



総務大臣 高市 早苗

「地域防災」のご創刊、誠におめでとうございます。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から4年余が経過しましたが、その後も各地で地震、台風、竜巻、豪雨、豪雪、火山噴火などによる被害が発生し、また、南海トラフ地震や首都直下地震などの大規模地震の発生も危惧されています。

大規模災害が発生した時に被害の拡大を防ぐためには、まずは、自分の身を自分で守ること（自助）が大切です。次に、地域や近隣の人々が互いに協力し合いながら防災・救助活動に取り組むこと（共助）が重要です。そして、それらを補完するのが国や地方自治体の対応（公助）です。「自助」「共助」「公助」が有機的につながることで、地域防災力が発揮され被害の軽減が図られます。

平成23年3月に発生した東日本大震災においては、日頃の防災教育の成果によって小中学生のほとんどが津波から避難をして助かった事例、地域住民により倒壊した家屋から助け出された事例などが見られました。また、昨年11月に発生した長野県北部を震源とする地震では、深夜の発生にも関わらず、消防団と自主防災組織が連携した救助活動等により、一人の犠牲者も出すことなく、人的被害が最小限に食い止められました。これらの事例から、地域防災力の重要性が再認識されることとなりました。

私は、国民の生命と財産を守ることが「国家の究極の使命」であると考えております。地域防災力の充実強化を図るために、防災知識の普及啓発の推進はもちろんのこと、消防団、自主防災組織、女性（婦人）防火クラブ、少年消防クラブ等の地域防災の担い手を引き続き応援してまいります。

この新たに発刊された情報誌「地域防災」を手にとられた皆様が、各地域の先進的な事例に触れ、地域防災力の充実強化に対する思いを新たにされ、ご家族やご友人にもお伝え下さることにより、大切な命を守れる安全な地域づくりが実現することを期待しております。